

## <スライド 講師紹介>

### 「役割と居場所がある コミュニティ・デザイン」

札幌市立大学デザイン学部  
准教授、社会福祉士

片山 めぐみ

(司会)

初めに、札幌市立大学デザイン学部 准教授 片山めぐみ様よりお話をいただきます。

「役割と居場所のあるコミュニティ・デザイン」でございます。

それでは、どうぞよろしくお願いたします。

## <スライド 1枚目>



みなさま、こんにちは。

今日はお天気の良い休日にも関わらず、こんなにたくさん来ていただきまして、どうもありがとうございます。

札幌市立大学という南区の芸術の森の隣にある大学なのですが、みなさんご存知でしょうか。

開学から20年近く経ちますが、なかなか知名度が上がらず「あんなところにデザインの学校があったんだ。」とよく驚かれるのですが、私は大学の前身の札幌市立高等専門学校の一期生です。

15歳から真駒内駅でバスに乗り、市立高専前まで行って、私は7年間高専に通いました。寒い中バスを待ち、ちょっとミュージアムまで行って、パンを買ってというような学生生活を過ごしてきました。あれから30年以上経つのですが、このような場に立って、みなさまの前でお話できることを大変幸いに思っています。

デザインというと、色や形を調整するのがとても上手で、何かセンスのいい人だと思っていないでしょうか。

実は私、あまりそういう意味での「モノ」はデザインしません。

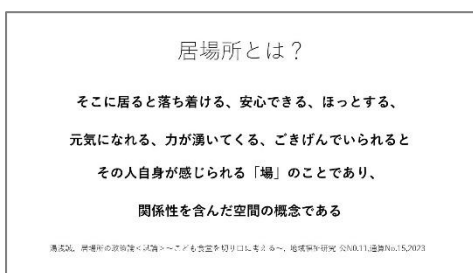
コミュニティといういろんな人がいる中で、町内会などにはいろんな問題を抱えています。

人と人がなかなか繋がらず、お互いに持っている得意が活かされない、何を考えているのかお互いわからないといった問題が結構多くて、そういったことを、お話を聞

いたり、繋げたり、そこで話し合っって決まったプロセスを他の方にお伝えして見える化する、というようなデザインを専門にしています。「コミュニティ・デザイン」と言います。

今日は、「役割と居場所のあるコミュニティ・デザイン」というお話をするのですが、ここで言う役割というのは何か町内会長であるとか、会計であるとか、という分かりやすい役割のことではなくて、「その場にいると自分ってこういう生かされ方あるんじゃないか。」とか、「あの人が居てくれるとなんか場が変わるよね。」みたいな無意識的な役割について引き出せないかというお話をさせていただきたいと思えます。

## <スライド 2枚目>



私社会福祉士の資格を持っているのですが、居場所って、福祉分野ではとても注目されています。特にコロナ禍以降、地域の居場所がないということで、ニュースのキーワードになることも多くなってきました。

居場所というのは、「そこにいると落ち着ける、安心できる、ほっとする、元気になる、何か力が湧いてくる、ごきげんでいられる」とその人自身が感じる「場」なんです。

「関係性を含んだ空間の概念である」は、ちょっと難しい言い方なのですが、実はこれは、お互いの相性によっては、居場所じゃなくなっちゃうかもしれないということなのです。

人同士だけではなく、空間の作り方も同様です。椅子が居心地悪くて、なんかあの面白そうなことを言ってるけど耳に入らないとか、寒くて集中できないとか。自分が居場所とを感じるためには、いろいろなものの相性によって初めて居場所になるのです。

湯浅誠さんという「年越し派遣村」の活動をずっとやってらっしゃった社会活動家の方のおっしゃられている言葉の引用なのですが、居場所というのはこんなふうに定義することができます。

### <スライド 3枚目>

札幌市立大学 学生サークル「八百カフェ」は、  
大学のある地域でみんなの居場所づくりを  
試んでいます

私は、大学でもコミュニティ・デザインを教えているのですが、札幌市立大学の学生サークルが「八百カフェ」というコミュニティ・マルシェを自分たちで立ち上げました。

今日はこの話をさせていただきたいと思うのですが、なぜかというと、真駒内の駅前~~の~~開発で、先ほど札幌市さんがご紹介してくださった図面の中に交流広場ってありましたよね。

地下鉄から出て、すぐ目の前に広場のようなものがあって、そこを市民活動の場として、こういったマルシェですとか、パフォーマンスの場ですとか、いろんな地域の人が主役になるような使い方をしてほしいという思いが込められているのです。

その場のイメージにとってもぴったりくる学生たちの取組です。サークルができて2年経つのですが、みなさんにイメージを持っていただきたいなと思って今日はこのお話をさせていただくことにしました。

大学は南区の芸術の森にあって、その芸術の森地域でみんなの居場所づくりを試んでいます。

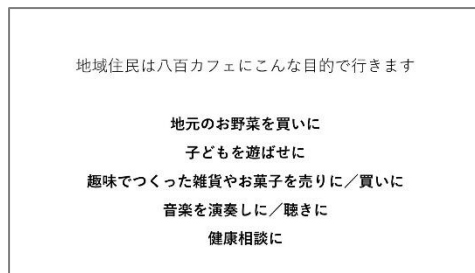
### <スライド 4枚目>



徐々にみなさんに注目していただけるようになって、S T Vの札幌ふるさと再発見という番組で放送されました。

(YouTube の映像)

## <スライド 5枚目>



地域住民の方は八百カフェにこんな目的で来ます。

地元のお野菜を買いに。子どもを遊ばせに。趣味でつくった雑貨やお菓子を売りに。もしくは買いに。音楽を演奏しに、聴きに。地元のアマチュアジャズバンドが毎回すごく素敵な音楽を奏でてくれているのです。

みなさん、最初はお野菜だけ買っていなくなっていたのですが、

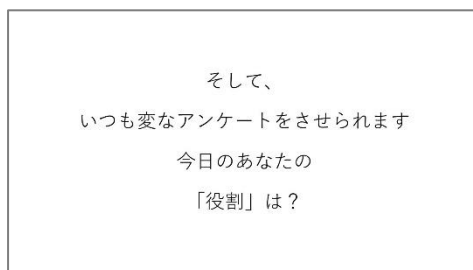
だんだんお野菜を買った後もずっといてくださるようになって、森の中で緑に囲まれながら、素敵なジャズを聞いてちょっとお茶飲んで。という日曜日の午前中の過ごし方が少しずつ定着してきたように思います。

健康相談というのは、知人の内科医が毎回白衣を着て、地域の方々の健康相談をしていたのですが、だんだん健康以外の相談も乗るようになって、今では人生相談になっています。

高校生が進路の相談をしたり、就職したばかりの看護師さんが病院勤務のことで相談したり。

毎年その相談が続いているということが起こっています。

## <スライド 6枚目>



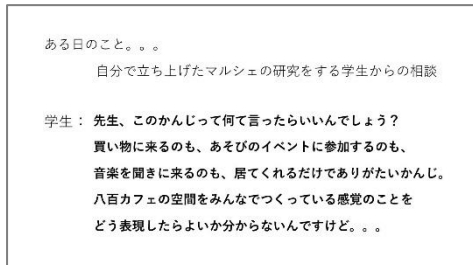
そして、八百カフェではいつも変なアンケートをさせられます。「今日のあなたの『役割』は？」と聞かれます。



か。

コミュニティ・デザインを教えたり、実践したりする中で、このテーマは永遠の問いなのです。「こんなことができれば、コミュニティ・デザインってもっと活躍できるよね。」というような話をよく授業でしています。

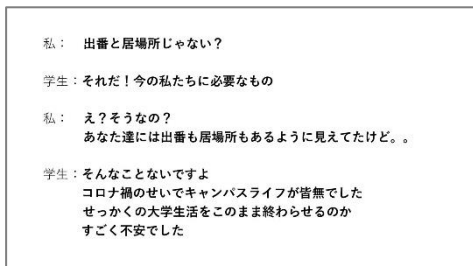
### <スライド 10 枚目>



先ほど、動画の中で八百カフェの代表の大村さんが出ていましたが、私のゼミで卒業論文を書きました。

卒業論文もいよいよ大詰めになってテーマを考えているある日のこと。彼女が、「先生、このかんじって何て言ったらいいんでしょう？買い物に来るのも、あそびのイベントに参加するのも、音楽を聞きに来るのも、居てくれるだけでありがたいかんじ。八百カフェの空間をみんなで作っている感覚のことをどう表現したらいいんでしょう。」と。「もっと学術的な言葉で言わないと、論文にならないですよね。」みたいな相談がありました。

### <スライド 11 枚目>

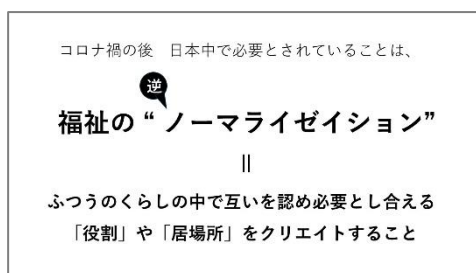


私は社会福祉士ですので、「社会福祉の現場だと、出番と居場所と絆って言ったりするよ。」と言ったら、「それだ！」と言うのです。

私は、「今活躍真っ只中でこれから社会に出るために生き生きと友達と勉強してるだろうあなたが、なんでこれだっていう感覚になるの？あなたたちには出番も居場所もあるように見えてたよ。」と言うと、「そんなことない。」と。

八百カフェを立ち上げたちょうど今から2年前の2年生の頃は、「コロナ禍のせいでキャンパスライフが皆無で、せっかくの大学生活をこのまま終わらせるのかとすごく不安でした。」というふうに言われました。

## <スライド 12枚目>



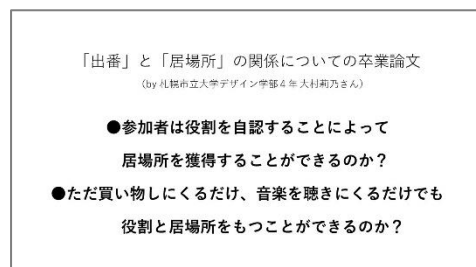
私は、はっとして、出番も居場所も、私はもう耳にタコができるほど福祉の現場では聞かされていたのですね。

障害を抱えたり、困り事を抱えた方が、地域社会の中で受け止められるという「居場所」のイメージがあったので、なんでこんな若い子から聞かれるのだろうとすごく驚きました。

ふと気づいたのは、ある特定の人たちのためのキーワードが、今、普通の人たちが必要なキーワードになっているのだなということです。

ノーマライゼーションの対象が逆転しているので、「逆ノーマライゼーション」と書いてあるのですが、コロナ禍の後、日本中で必要とされていることは、ふつうのくらしの中で互いを認め、必要とし合える「役割」や「居場所」をクリエイトすることだと私自身も気づかされました。

## <スライド 13枚目>

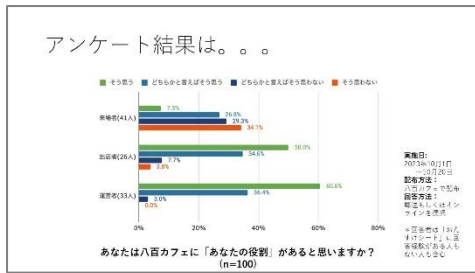


卒業論文の論文の目的は2つあったのです。

参加者は役割を自認することによって、居場所を獲得することができるのか？

ただ買い物しにくるだけ、音楽を聞きにくるだけでも「役割」と「居場所」を持つことができるのか？という2つです。

<スライド 14枚目>



そこで八百カフェの現場でアンケートを100名に取りました。

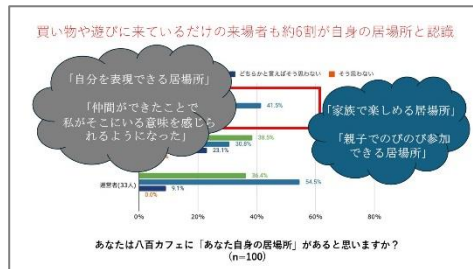
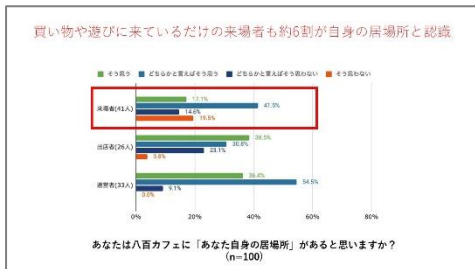
「あなたは八百カフェに『あなたの役割』があると思いますか？」というアンケートです。

もちろん、出店する人の役割ははっきりしています。あと、運営者やサークルの学生なんかも自分の役割がはっきりしているので、彼らは8~9割が役割があると答えるのですが、

ただ、お買い物に来てワークショップに参加しているような来場者も3割ぐらいは、役割があると回答しているのですね。

これはさっきの「おたすけシート」に答えている人もいますし、答えたことがない人もアンケートに回答しています。

<スライド 15・16枚目>



もう1つ、「あなたは八百カフェに『あなた自身の居場所』があると思いますか？」という問いには、ただお買い物や遊びに来ているだけの来場者も6割の人が自分の居場所と認識していました。

「どんな居場所ですか？」と聞くと、「家族で楽しめる居場所」とか「親子でのびのび参加できる居場所」

あと、運営スタッフの学生たちは、「自分を表現できる居場所」、「仲間ができたことで、私がそこにいる意味を感じられるようになった。」というように言っています。



## <スライド 17枚目>

- ただ買い物しにくるだけ、音楽を聴きにくるだけでも  
来場者は「八百カフェ」での役割を自認し、  
居場所があると感じている

こんなふうに、ただ買い物しにくるだけ。音楽を聴きにくるだけでも、来場者は八百カフェでの役割を自認し、居場所があると感じていることがわかりました。

## <スライド 18枚目>

居場所とは？

- そこに居ると落ち着ける、安心できる、ほっとする、  
元気になれる、力が湧いてくる、ごきげんでいられると  
その人自身が感じられる「場」のことであり、  
関係性を含んだ空間の概念である

湯浅 2016 居場所の認知論<試論>〜「こども食堂」切り口に考えを〜、地域学研究 2016.11.通巻No.75,76,77

これは、先ほど湯浅さんがおっしゃる安心できたり、力が湧いてきたり、ごきげんでいられるという「居場所」に合致しています。

## <スライド 19枚目>

学生達がつくってくれた「八百カフェ」で  
教員の私自身も念願の実践研究を始めました！



不登校の子どもたちのフリースクール

このように学生が頑張ってつくってくれた場所をもうちょっと広く社会のために何か使えないかなと思って、実践研究を始めてみました。

不登校の子どもたちのフリースクールです。今、全国で30万人ぐらい不登校の学生たちがいるのですけれども、その子たちは、学校に行けないだけじゃなく、学校の先生やお父さんお母さん以外の頼れる大人がいないのですね。地域社会とも繋がっていません。

## <スライド 20枚目>



フリースクールの中でお手伝いや作品づくりで八百カフェに出店してもらって、地域コミュニティと関わりを持たないかという取組を始めました。

## <スライド 21枚目>



この仕組みとして、地域通貨というのを導入したのですね。

「八百（ヤオ）」という地域通貨で「うれしい、たのしい、ありがとう」などの気持ちを表す通貨です。

「しょうひんづくり」とか「お店のしょうしょくづくり」をするとお金がもらえます。

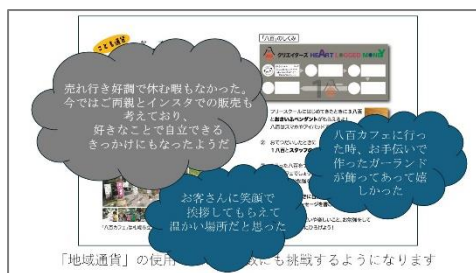
そのお金を使うには、八百カフェでイベントに参加したり、工作ワークショップに参加したり、お勉強を学生スタッフから教えてもらうことでお金を使います。

このような紙幣にしているのですが、これが面白いのは、自分のスタンプとコメントを書いて、お支払いする相手に感謝の気持ちを手書きできる通貨です。その通貨が人に回ると、その人がまた払う時には2番目のところにスタンプとコメントが書かれて、コミュニティの中をめぐってお金なのです。

これを見ていると、「何々ちゃん、こんなことやって、こんなふうにお金稼いだんだ。」「この人に払ったんだな。」というのがずっと巡っていく。という仕掛けです。

このようにすると、子供たちはすごく乗って、自分の作品も売ったり、お手伝いをした商品が売られたりというようなことが起こりました。

## <スライド 22枚目>



子どもたちは、「お客さんに笑顔で挨拶してもらえて温かい場所だと思った」とか「八百カフェに行った時、お手伝いで作ったガーランドが飾ってあって嬉しかった」とか。

お父さんお母さんは、「八百カフェにきた時、売れ行き好調で休む暇もなかった。今ではご両親とインスタでの販売も考えていて、好きなことで自立できるきっかけになったようだ。」というような声が聞かれています。

## <スライド 23枚目>



コロナ禍、大変な経験でしたけれども、あの経験でわかったことがたくさんあると思います。

今、日本中で求められていることは普通の暮らしの復権ですね。

赤で「ふくし」って読むのですけれども、これまで福祉は何か特別な人たち、自分たちとは関係ない人たちのためのものだと思っていたと思うのですけれども、実は、私たち一人ひとりの日常のくらしを豊かにすることが福祉だということに気がついたと思います。

ふつうのくらしの中で互いを認め、必要とし合える「役割」や「居場所」を生み出すことが、この真駒内の駅前開発でも新しいコミュニティ・デザインになるのではないかと考えています。

ぜひみなさん、何かちょっと響いたなというようなことがありましたら、ぜひ一緒に取り組みましょう。

私からの話は以上です。

ありがとうございます。